

平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（伏見板橋幼稚園）

教育目標

心身ともに健やかで、たくましく生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none">家庭で愛情を注がれて育ち、安定した教育環境の中、心身の成長が見られ、いろいろな人に対する親しみの感情が育っている。3年間の育ちを見通して保育を進めてきたこともあり、発達年齢に即した育ちがどの学年にも見られている。明るく前向きに取り組んだり友達の頑張りを認めたりする姿勢と共に、いろいろな友達関係の広がりが見られる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">保護者にとって見えにくい子どもの育ちに対する評価は、保護者の謙遜も含まれた主觀による評価とも考えられ、幼稚園での教育の在り方や結果によるものとは言い切れないだろう。保育料無償化に伴う入園希望者の動向はどうなるのか、どう取り込んでいくのか、入園の決め手となるのは何なのか検討が必要である。地域で必要とされる園となるようアピールしていく。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月5日	学校運営協議会
最終評価	平成31年3月6日	学校運営協議会

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する **保育の改善・充実**

具体的な取組

- 子ども自らが心を動かし、やってみようとする気持ちがもてるような魅力ある環境構成や幼児の主体的な活動を促す教師の援助を探る。
- 「安心・安定」した園生活を基盤とし、一人一人が自己発揮しながら夢中になって遊び込むための環境構成や学年や個々の発達に応じた教師の援助
- 幼児一人一人の発達の特性や興味・関心、また育てたい力に基づいた教育課程の作成

(取組結果を検証する) 各種指標

- 子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・評価の記述
- アンケート項目
 - ① 「幼稚園を好きだと感じている」
 - ② 「教職員は話しかけやすい雰囲気である」
 - ③ 「身近な動植物に興味・関心をもったり、大事にしようとしたりしている」

中間評価

各種指標結果	
① 98% (前年度結果より若干低下) ② 96% (前年度より向上) ③ 96%	
自己評価 分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">教師が、一人一人の子どもと信頼関係を築きながら、安心・安定できる学級づくりに取り組み、自己発揮するための基盤づくりを行うことで、安心して幼稚園で過ごし、幼稚園を好きだと感じている子どもも多い。すべての子どもにとって、魅力ある幼稚園を目指していきたい家庭との連携を密にとりながら、信頼される幼稚園づくりを目指して取り組んでいることで評価は昨年度より上がっているものの、教職員に話しかけにくく感じる保護者もいる。保護者も生き物に关心がもてるような場を工夫することで、关心をもって動植物とかかわる子どもが増える。猛暑もあり、植物への关心が高められるような工夫が難しかった。	
分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">引き続き、幼児理解を深めながら、一人一人の子どもが主体的に活動し、夢中になって遊び込むための環境構成や援助を探っていく。教職員が自己を振り返るとともに、現在の園の状況を最大限に生かした体制づくりを引き続き工夫していく。保護者も巻き込みながら、動植物に关心がもてる環境づくりを工夫し、取り組んでいく。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none">前期との比較、検討を行うことで取組の改善を検証する。	
学校関係者評価 学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">保護者が相談しやすい雰囲気がある。保護者の捉え方は様々である。保護者の思いに寄り添うことも大切だが、迎合し過ぎず園の教育方針を伝え、信念を貫くことも大切である。保育の充実のためには、保育終了後の教材準備・研究が必要であり、時間とやりがい、教員の健康の兼ね合いが重要となる。	
最終評価	
中間評価時に設定した各種指標結果	
① 100% (前期結果より向上) ② 95% ③ 96%	
自己評価 分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">教師が、一人一人の子どもと信頼関係を築くことで、安心して自己を表現し、幼稚園生活を楽しむことができている。どの子どもも安心して過ごしているという結果となったことは成果である。家庭との連携を密にし、思いを共有しながら、信頼される幼稚園づくりに取り組んでいることで、評価につながっている。話しかけにくさを感じている保護者の思いに寄り添いながら信頼関係を築いていきたい。サツマイモやポップコーンなど、園で収穫した物を調理して食べたり、飼育している動物の世話をしたりすることで、動植物への关心が高まり、大事にしようとする気持ちが育っている	

学校 関係者 評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、一人一人の子どもが安心して自己発揮できる幼稚園づくりを進めていきたい。 教職員は、自己を振り返り、どの保護者とも同じように、信頼関係を築いていけるように努める。 動植物に親しみがもてるような環境づくりや子どもへのかかわりを、引き続き進めていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは幼稚園を好きだと感じているという回答が100%であることは、子どもにとって幼稚園が安心できる場となっていると捉えることができる。今後も、一人一人の子どもが安心して自己発揮できる幼稚園、また、信頼される幼稚園づくりを目指して、一人一人の教職員が意識をもって幼稚園運営にかかわっていきたい。

(2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> “夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、意欲的・主体的に物事にかかわろうとする態度を育む教師の援助や環境構成を考える。また、小学校段階を見据えた学びに向かう力を意識した保育を推進する。 子どもが小学校を身近に感じ、就学の期待感を膨らますことができる交流保育など、円滑な接続に向けた年間計画の策定 「親子で絵本！」を活用しながら、絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうなど、言葉に対する感覚を養う。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を見据えた教育課程の編成。接続期の年間計画を意識した5歳児教育課程の検討と作成 小学校との交流や施設利用状況。交流保育の事前事後研修の実施 就学前の情報交換・就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継 「親子で絵本」の活用状況、便りでの保護者のコメントや子どものつぶやき等の紹介 アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ① 「園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」

中間評価

	各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> 実践事例や研究保育を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿として検討。 小学校との年間計画の共有・交流保育の日程調整・共通理解が1学期より実現。幼小交流について話し合うことで、防火コンサートの参加の仕方を工夫することができる。 	

- ・小学校の養護教諭（兼務）による視力・聴力検査の実施、小学校プール・校庭の活用など、昨年度より小学校の環境を生かす機会が増える。
- ・親子で絵本の活用の公表。「おすすめ絵本」の場を設けるなど、環境づくりを工夫する。
- ・① 97%

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿として分析することで、明確化。 ・早期の小学校との打ち合わせが実現したことで、年長児や一年生の様子について共通理解したり、より子どもが親しみを感じられる交流について話し合ったりすることができた。 ・小学校に出かけ、養護教諭による視力・聴力検査を実施したり、小学校のプールを活用したりすることで、小学校への親しみを感じ、年長児の就学への期待が膨らんだ。 ・親子で絵本の活用を公表することで、意識を高めることができた。 ・幼小連携や交流について、3・4歳児の保護者に十分伝えきれていなかった。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・より接続期を意識した5歳児後期の教育課程を編成していく。 ・降園時の保護者への連絡やホームページを活用し、幼小連携についてより分かりやすく積極的に知らせていく。 ・個別の指導計画・就学支援シートを保護者に呼びかけて広め、作成中。 ・引き続き、絵本の親子貸出を行い、「親子で絵本！」の活用を啓発すると共に、絵本に親しむ環境づくりに努める。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、検討を行うことで取組の改善を検証する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが幼稚園生活での体験を通した学びを経て、就学に向かうことを保護者に知らせることが重要である。 ・幼保交流を検討してはどうか。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例や研究保育を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿として検討。 ・小学校との交流の実施。就学前の子どもの姿の引継。就学支援シート・個別の指導計画の活用・引継 ・「親子で絵本！」の活用の公表。100冊達成者数29名。
	① 97%
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例や研究保育の中で、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿として、検討することで、より明確にすことができた。 ・就学前の時期に幼小交流を行うことで、子どもの就学への不安を減らし、期待感を膨らますことができた。就学支援シートや個別の指導計画を通じて、個の姿や具体的な支援の在り方を引継ぐことができた。就学後の姿を引き継ぎ、共有していきたい。 ・「親子で絵本」の活用を公表し、100冊達成者数が29名となった。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、子どもの姿を幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の視点からも捉えられる力を

	<p>高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流の様子を保護者に積極的に伝えていく。 ・親子で絵本の活用を引き続き促していくと共に、絵本に親しむ環境づくりに努める。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の施設を利用させてもらう機会が増え、子どもの小学校への期待感が膨らんだ。小学校と計画的・継続的な交流を実施できるように、教職員同士の連携をより深めていきたい。 ・接続を意識した教育課程の編成をより充実したものとする。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板橋学区のように幼稚園、小・中学校、児童館が隣接している地域はそうない。それぞれが良さを活かしながら積み上げてきたものがあり、地域の支えがある。 ・幼稚園の教員が小学校の作品展を見に来ることで、小学生（卒園生）やその保護者も嬉しく感じたことだろう。幼小連携の取組を今年度以上に計画的にしていきたい。 ・サンサンキッズ理事会の3つの部に、親しみやすい名前を募集して付けてはどうか。 ・地域にたくさんお世話になっていることを保護者にしっかりと伝えていくことが大切である。
---------	--

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの発達や能力に合わせ、様々な体の動きを試しながら全身を使う遊びを取り入れた保育計画。 ・安全に十分配慮した遊具や用具、園庭の自然などの環境づくり。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう体操やダンスを取り入れた保育計画。 ・年齢にふさわしい基本的生活習慣を形成するための環境構成や保護者への連携と啓発。 ・子どもが自分自身の身体や健康への興味・関心を高めるための保健指導。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ① 「体を動かして遊ぶことが好きである」 ② 「持ち物の始末や着替えなどの基本的生活習慣における項目」（各学年） ・体を動かして遊ぶ子どもの姿の変容・分析 ・子どもの安全・健康に対する意識の変容

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>① 98.5%（前年度結果より若干低下）</p> <p>② 3歳児94.4% 4歳児86.9% 5歳児93.3% （前年度結果より向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態や季節に応じた毎月の保健指導を実施
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録的猛暑の影響下で幼稚園や家庭において戸外で遊ぶ時間が減り、子どもが十分に体を動かして遊ぶ機会が減った。 ・昨年度より向上しているものの、園庭開放時の親子での片付けが十分でなかったり、落とし物や持ち物の名前の記入漏れもよく見られたりする。子どもが物を大切にしようと思えるよう働きかけるとともに、保護者啓発も行う必要がある。 ・保健指導や日々の保育の中で熱中症予防のための知識を子どもに伝え、自ら予防できるよう働きかけることができた。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもも自ら体を動かしたいと思える環境づくりや友達や教師と一緒に体を動かす楽しめを十分に感じられる教師のかかわりに努める。 ・基本的生活習慣の定着を目指し、保護者と連携しながら発達年齢に合わせたかかわりを行う。 ・整理整頓された園内環境を心がけるとともに、子どももが自分の物を大切に扱えるよう働きかけたり、保護者にすべての持ち物に名前を書くことを保護者に啓発したりして、家庭と十分に連携しながら子どもが物を大切にしようとする。 ・引き続き、季節や子どもの実態に応じて、子どもに保健指導や日々の保育の中での指導を行い、健康に過ごすための理解を深める。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、運動会に向けての取組を通した子どもの姿の変容や園内研修等での検討・分析を行うことで取組の改善を検証する。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが先生に見守られながらのびのびと過ごしている。 ・子どもは小さなけがをすることも含めて体験を通して学び、危険回避能力を身につけていくものである。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>① 98.6% (前期評価結果とほぼ同じ)</p> <p>② 3歳児 77.7% (前期より低下) 4・5歳児 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や子どもの姿に応じた保健指導を毎月実施。子どもが見てわかる資料や写真を職員室前に掲示。
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びを好み、継続して楽しむ姿や友達の刺激を受けて取り組む姿が見られた。その成果を保護者に伝えきれていない部分もあった。 ・基本的生活習慣については、3歳児は家庭と連携しながら個々の発達に応じた援助が必要である。 ・整理整頓された気持ちよさを子どもが感じるためのかかわりについて検討したい。 ・季節に応じた過ごし方や手洗いうがいの大切さを感じ、健康に過ごすための意識が向上した。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き体を動かす楽しさが感じられる環境づくりや援助に努めるとともに、体を動かすことによって心も動く姿について保護者に発信・啓発する。 ・進級・進学も意識しながら、発達年齢に応じた生活習慣の確立に努めるとともに、家庭とも連携しながら物を大切にする気持ちを育む。 ・教職員も子どもと一緒に片付けの最後の確認ができるよう教職員同士で連携を密にしたり、子どもが整理整頓しやすい環境づくりを工夫したりする。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを感じ、友達の刺激も受けながら自信をもって生活する姿が見られている。引き続き、意欲的に体を動かして遊ぶ楽しさを感じられる教師のかかわりや環境構成などを研究し、体を動かす意欲を育てる。 ・整頓された環境づくりを教師も心掛け、気持ちの良い園内環境を整える。身の回りのことを自分でしようとする意識を高め、基本的な生活習慣を身につけられるように低年齢児から働きかけ

	る。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の定着の基礎はまずは家庭にある。 ・京都は男女共に体力が低い。遊びを通して体力やいろいろな力が身についていく。 ・我が子は運動が苦手だが、親子で会話をして初めて「体育が好き」と知った。親子できちんと会話ができれば、その時の子どもの思いや姿をきちんと見取ることができ、適切な評価をすることができるが、そうでなければ難しい。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係のもと、子どもが安心感をもってのびのびと自己発揮できる保育実践 ・葛藤やつまずき、折り合いをつける経験など子どもの発達に応じた人とのかかわり ・様々な遊びを通して決まりを守る必要性を意識できる経験 ・子どもが自己有用感や自身を大切にされていることを実感できる教師のかかわり ・各学年の発達に合わせた計画的な異年齢交流（幼稚園きょうだい）や保護者への発信 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードや研究保育における協議・検討 ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ① 「自己発揮や人とのかかわりに関する項目」（各学年） ② 「教職員は、一人一人の子どもを大切にし、温かいかかわりをしている」 ・子どもの姿の変容・分析 ・アンケートにおける保護者の意見
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>①3歳児 94.4% 4歳児 100% 5歳児 96.6%</p> <p>②95.7%（前年度結果より向上）</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの信頼関係を築き、安心して幼稚園生活を送れるよう努めることができたが、一人一人の育ちや成長を伝える機会をもつことが大切である。 ・教職員間の良好な関係性やスムーズな連携ができた。 ・子どもの実態に合わせ、自然に触れ合える無理のない幼稚園きょうだい活動の取組から始めることができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの様子や個々の子どもの育ち、幼稚園でのかかわり等をより丁寧に保護者に伝えることで、保護者との信頼関係をさらに深めていく。 ・全教職員がすべての子どもとのかかわりを大切にし、教師との信頼関係を基盤に安心・安定した生活を送りながら子ども一人一人が自己発揮できるよう努める。 ・幼稚園きょうだいの取組を通して、折り合う心の育ちが見られる保育を推進する。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、子どもの姿の変容を捉え検討を行うことで取組の改善を検証する。

学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・親になってまだ数年の保護者にとって、子どもと同様に幼稚園は学びの場である。家庭でのあり方を自ら見直し、幼稚園に慣れることが大切である。保護者自身が自らを振り返り、あるべき姿を思い起こせるよう支援してほしい。 ・中学校ではメール配信ではなくホームページでのお知らせのみ行われている。便利になることで返って教師の負担が増えていることが伺える。 ・子どもの個性を重視し、好きな遊びを通した学びを大切にしている幼稚園の良さを地域からもアピールしていきたい。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<p>①3歳児 94.4% 4歳児 100% 5歳児 96.6%</p> <p>②95.7% (A評価数が増加)</p>
分析 (成果と課題)	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・クラスや一人一人の子どもの育ちや課題について保護者と共有したり、教職員間でも率直な意見を交わしたりして子どもの内面の見取りや適切なかかわりができた。 ・幼稚園きょうだいの取組を通して、いろいろな友達や教職員とのかかわりが生まれ、子どもがのびのびと自分らしく過ごせる環境づくりが実現した。発達年齢に応じて心つながる姿が見られた。 ・教職員が一人一人の保護者の思いに寄り添いながら気持ちの良い対応を心掛けてきたことで、園と保護者との関係が改善され、子どもの心の安定にもつながった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・年少児と年中児の交流のもち方を工夫し、充実させる。 ・引き続き、教職員一人一人が保護者の思いに寄り添いながら温かい対応をしていく。 ・「自己発揮や人とのかかわりに関する項目」(各学年)について、時期や子どもの発達に応じた項目となるよう、前期と後期に違いを出す。
重点目標の達成状況、次年度の課題	重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園きょうだいの活動を通して、異年齢の友達関係が広がり、いろいろな友達や教職員に親しみをもって関わろうとする姿や年下の友達にやさしくかわろうとする姿が見られた。 ・教職員間の良好な関係の維持と共に、子どもも保護者も自身が大切にされていることが実感できるよう努める。
	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の保護者は、我が子にできないことがあるということに焦りを感じる。できないことがだめなのではない。教師と保護者で子どもの小さな成長を共有し、共に喜び合える機会を大切にしてほしい。 ・何かあった時に真剣に対応してくれる先生がいることが大事。